

技能五輪全国大会への介護職種の追加に向けた方向性について

令和7年2月 17日

I 技能五輪全国大会への介護職種の追加の時期について

- 競技実施に係る課題を整理し円滑な正式競技化を図るため、2025年大会ではエキシビションとして実施する。また、エキシビションの実施に向け、必要に応じて競技の実現可能性を検証するためトライアルを実施する。^{※1}
- エキシビションの結果を踏まえ、介護職種を2026年技能五輪全国大会へ正式競技として追加する。

II 介護競技の実施に向けた協力について

- 技能五輪全国大会における介護競技(エキシビション等を含む。)の準備・運営のため、介護関係団体からなる協力体制を構築する。その際、当該体制に参画する団体(以下「協力団体」という。)は別紙の6団体とし、必要に応じ適宜追加等する。
- 協力団体は、介護競技の準備・運営に必要となる、
 - ①競技主査及び競技委員等の推薦^{※2}、
 - ②競技に使用する機材等及び会場の手配^{※3}、
 - ③周知・選手の募集等について、「各種技能競技大会推進事業」受託者(以下「受託者」という。)に協力する。
- 具体的な協力内容及び協力団体間の分担については、協力団体間及び受託者と調整のうえ2025年夏までを目途として決定する。

※1 2025年大会(エキシビション)及び2026年大会における競技会場は、メイン会場である愛知国際展示場を予定。トライアル会場については、協力団体の協力を得つつ選定等を行う。

※2 競技主査及び競技委員は介護職種の競技委員会を構成し、課題、採点基準、実施要領等を作成するとともに、競技準備、競技実施の指揮・進行、評価・採点等の競技運営を実施する。

※3 競技に使用する機材等は受託者が準備し、その費用は、原則として委託費が充てられる。協力団体は、機材等の選定について、また、貸与・提供について可能な協力を行う。

技能五輪全国大会 介護職種 関係団体について

1 在宅介護をメインとする団体

- (1) (一社)シルバーサービス振興会 ※

2 施設介護をメインとする団体

- (1) (公社)全国老人福祉施設協議会
- (2) (公社)全国老人保健施設協会

3 その他

- (1) (公社)日本介護福祉士会
- (2) (公社)日本認知症グループホーム協会
- (3) (一社)全国介護付きホーム協会

※(一社)シルバーサービス振興会は、在宅介護をメインとする6団体((一社)日本在宅介護協会、(一社)「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会、JA 高齢者福祉ネットワーク、(一社)全国コープ福祉事業連帯機構、(特非)市民福祉団体全国協議会、(社福)全国社会福祉協議会)とともに「民間介護事業推進委員会」を構成する団体であり、これを代表する。